

2018年6月11日  
凸版印刷株式会社

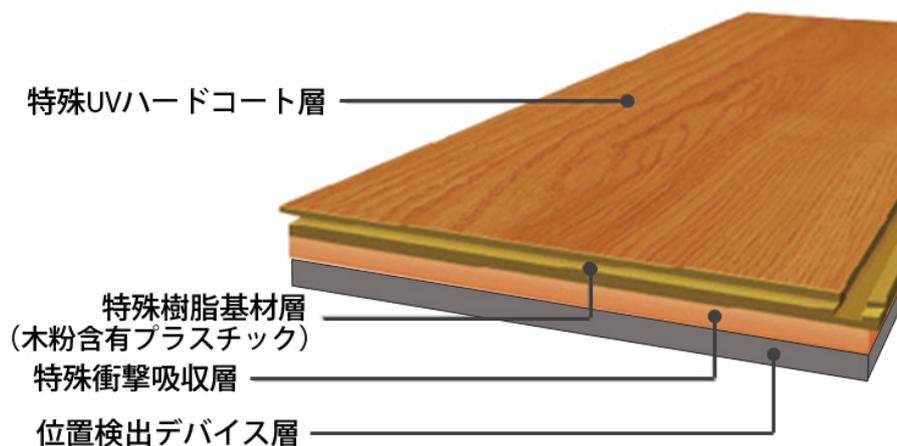
## 凸版印刷、IoT 建材で未来の家実現

各種センサーなど IoT 機器と建材を組み合わせた新製品の開発に着手、  
横浜市内で実施する、IoT スマートホームを用いた生活モニタリング実証実験に参画

凸版印刷株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:金子眞吾、以下 凸版印刷)は、意匠性や機能性、環境適性に優れた建材事業を展開しています。

このたび、従来提供する建材に、各種センサーなど IoT 機器を組み合わせた新製品の開発に着手。生活の中に建材を通じて IoT 機器がさりげなく溶け込み、居住者の健康管理や見守りなどをサポートする未来の生活空間の実現を目指します。

なお第一弾として、株式会社 NTT ドコモ(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:吉澤和弘)・横浜市・and factory 株式会社(本社:東京都目黒区、CEO:小原崇幹)が「I・TOP 横浜(※1)」内のプロジェクトとして推進する「未来の家プロジェクト(※2)」の取り組みの1つとして、2018年6月12日(火)から横浜市内で実施する「IoT スマートホーム®を用いた生活モニタリング実証実験」(以下 本実証実験)に参画。床材と圧力センサーを組み合わせることで位置検出を実現する新技術を用い、居住者の健康・活動状態を、離れて住む家族のモバイル端末などで見守る仕組みの実現可能性について検証します。



本実証実験で使用する床材と圧力センサーを組み合わせた新製品の構造図(上)と、本製品を設置した実証スペース(下)

## ■ 背景

昨今、各種センサーなどの IoT 機器を製造現場だけでなく生活空間に活用することによる新たな価値の創造が求められています。

凸版印刷は 1951 年に建装材事業に着手して以来、印刷テクノロジーを活用した床材や壁紙などの開発・製造を通じ、快適な住まいの実現に貢献してきました。

今回、建装材に各種センサーを組み合わせた IoT 建材の実現に向けて本実証実験に参画し、居住者が床を踏むことで検出される位置情報や日時データの収集や、それを活用した効果的な見守りサービスの実現性などについて検証。建装材事業を通じた未来の生活空間の実現を目指します。

## ■ 本実証実験の概要と、凸版印刷の実証内容

名称	IoT スマートホーム®を用いた第 2 回生活モニタリング実証実験
場所	相鉄文化会館駐車場 神奈川県横浜市泉区緑園 4 丁目 3-28 (相鉄いずみ野線緑園都市駅から徒歩 5 分)
期間	2018 年 6 月 12 日(火)～9 月 24 日(月) 予定
内容	被験者が IoT スマートホーム®で、自宅にいるときと同じように 1 週間生活をし、実験前後での被験者の状態変化、意識変化、行動変容について評価・検証する。
参加企業・団体	株式会社 NTT ドコモ、横浜市、and factory 株式会社、相鉄グループ、富士通コネクテッドテクノロジーズ株式会社、凸版印刷株式会社、株式会社資生堂、三和シャッター工業株式会社、グリーンブルー株式会社、foo.log 株式会社
凸版印刷の実証内容	IoT 建材のひとつである位置検出床を敷設し、より詳細な住人の活動状況の把握による、効果的な見守りサービスの実現可能性を検証

## ■ 今後の目標

凸版印刷は本実証実験の結果を検証し、圧力センサーと床材を組み合わせた IoT 建材の技術開発を進め、2018 年度中の製品化を目指します。

また今後も IoT などの先端技術と建装材を組み合わせた新製品の開発を進め、2020 年度に関連受注を含め約 100 億円の売上を目指します。

※1 I・TOP 横浜 (IoT オープンイノベーション・パートナーズ)

横浜市が 2017 年 4 月に立ち上げた横浜経済の強みである「ものづくり・IT 産業の集積」を生かし、IoT などを活用したビジネス創出に向けた交流・連携、プロジェクト推進、人材育成などの場です。

※2 未来の家プロジェクト

人工知能 (AI) および IoT を活用し、居住者のリラックス度や活動量などの生活状態を可視化することで気づきを与えることや、快適な室内環境づくりを行うことを検討・推進するプロジェクトです。

\* 「IoT スマートホーム」は株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

\* 本ニュースリリースに記載された商品・サービス名は各社の商標または登録商標です。

\* 本ニュースリリースに記載された内容は発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。

以 上